

「波大学哲学・思想学系論集」「筑波大学哲学・思想論集」 総目次1号～18号

雑誌名	哲学・思想論集
巻	19
ページ	105-111
発行年	1994-03
URL	http://doi.org/10.15068/00157433

『筑波大学哲学・思想学系論集』筑波大学哲学・思想論集』総目次

本学は、平成五年十一月をもって二十周年を迎えた。開学と同時に設立された本学系も、同じく二十周年を迎えることになる。本来ならば、二十号刊行を一区切りとするところ、開学および学系設立二十周年を記念して、創刊号からの目次をまとめて掲載することとした。

筑波大学哲学・思想論集編集委員会

筑波大学哲学・思想学系論集第一号（昭和五〇年度）

意識の問題——『人間と世界』への予備的考察——	永井 博……………一
封建倫理と家産性倫理——孔門下の二つの可能性——	木全 徳雄……………三
比較思想論余論……………	三枝 充恵……………五
荀子における儒家的理念と天の思想的位置……………	松田 弘……………三
裴頠『崇有論』考……………	堀池 信夫……………三

哲学・思想論集第十九号

第二号（昭和五一年度）

中体西用論と康有為学……………	別府 淳夫……………二〇
朱・王両思想の比較論的研究（第四部）……………	高橋 進……………二六
The Concept of the Subtle Body (linga-sarira) in Brahmanism……………	川崎 信定……………一
個体（一）——アリストテレスとトマス——……………	野町 啓……………一五
心理物理的法則としてのベキ関数の検討……………	上笹 恒……………三三
デューイ歴史理論に関する若干の問題……………	山田 英世……………一
マグネシアの国——（その一）……………	池田 美恵……………二九
パスカルとポールⅡロワイヤル（一）……………	飯塚 勝久……………三九
一遍の宗教の歴史的 성격（二）——神道及び禅宗との関連——……………	広神 清……………六一
The Mīmāṃsā Chapter of Bhavya's Madhyamaka-hṛdaya-kārikā——Text and Translation——……………	川崎 信定……………一

第三号（昭和五二年度）

イメージについて	嶋田 厚	一
一遍の宗教の歴史的 성격 (二)		
——鎌倉旧仏教の神祇観との対比——	広神 清	三
「莊子」の思想的特質——外篇を中心として——		
……	松田 弘	三
宇宙的思惟から内的思弁へ	堀池 信夫	七
プラトンの宇宙の時間性と空間性 (一)	矢内 光一	一〇三
疑いと信仰の間——中山みきの救いの信仰の起源——		
……	島菌 進	二七

第四号（昭和五三年度）

伝統と再新——歴史哲学の一テーゼ	大島 康正	一
無意識の实在性——『人間と世界』への一章——		
……	永井 博	二七
ヘルダーとカントにおける啓蒙主義と絶対主義	村上 隆夫	三〇
プラトンの宇宙の時間性と空間性 (二)	矢内 光一	三六
王弼考	堀池 信夫	五九
金光教学と人間教祖論——金光教の発生序説——		

第五号（昭和五四年度）

……	島菌 進	一〇一
嚴翼・王堂プラグマティズム論争考	山田 英世	一
プラトンの法理論——マグネシアの国・その二	池田 美恵	三
プラトンの宇宙の時間性と空間性 (三)	矢内 光一	三〇
カントとヘルダー——美と摂理をめぐる論争——		
……	村上 隆夫	三〇
神仙の復活	堀池 信夫	三六
李栗谷における理氣論の特質とその思想史的位置		
……	松田 弘	三三

金神・厄年・精霊——赤沢文治の宗教的孤独の生成——		
……	島菌 進	三七
On Comparing Buddhism and Christianity		
……	マイケル・パイ	一

第六号（昭和五五年度）

比較思想への序章	三枝 充恵	一
Physica と mechanica——ヘーゲル『惑星軌道論』における		
ひとつの問題——	中埜 肇	二七

ジャンセニスムにおける「伝統」と「革新」

——パスカルとポール＝ロワイヤル(二)——

..... 飯塚 勝久 二七

明治以降の親鸞像の再検討——森三樹三郎氏の自然法爾解釈への

批判を媒介として..... 木全 徳雄 二八

日本の家族の百年——理念と現実——..... 嶋田 厚 二六

民族宗教の構造的変動と新宗教——赤沢文治と石鍵譜——

..... 島蘭 進 二五

嵯康『声無哀楽論』考——音楽論の立場から——

..... 堀池 信夫 二三

筑波大学哲学・思想論集 第七号 (昭和五六年度)

深層心理の現象学ノート(一)..... 湯浅 泰雄 一

ソクラテスのパラドックス——アリストテレスによる批判

をめぐって..... 池田 美恵 二七

ポール＝ロワイヤルの「小さな学校」とジェズイット学院——

パスカルとポール＝ロワイヤル(三)..... 飯塚 勝久 二七

ディルタイにおける歴史的理性批判の構想(一)

——ヘーゲル哲学批判を中心として——..... 水野 建雄 二五

思想の流儀について..... 野田 茂徳 一

第八号 (昭和五七年度)

李退溪の人間観(第一部)..... 高橋 進 一

『中国自然神学論』研究——ライプニッツと中国思想——

..... 堀池 信夫 二七

一九二一年・クロンシュタット叛乱の現代史に於ける思想的地位

..... 野田 茂徳 二七

ギリシア語聖書の研究とその構想..... 伊藤 利行 一五

Zur Triade der Parados in »Agamemnon« von Aischylos

..... Seizo TSUJIMURA 一

第九号 (昭和五八年度)

連合場としての宇宙..... 永井 博 一

権近思想の歴史的意義について..... 高橋 進 三一

康有为と荀子(一)..... 別府 淳夫 二九

ディルタイにおける歴史的理性批判の構想(二)

——歴史内在主義のアポリア——..... 水野 建雄 二九

大衍小記——王弼の易解釈一斑——..... 堀池 信夫 二五

ヘーゲル論理学における〈否定〉の原理..... 竹村喜一郎 二九

シロ・ヘクサブラとヘクサブラ研究——ヘクサブラ研究2——..... 二五

第十号（昭和五九年度）

ロシアに於ける国家理性と政治的リゴリズムの伝統	伊藤 利行	1
.....
嵯康と兼好——中国と日本の隠逸——	野田 茂徳	一
.....
堀池 信夫	二五
初期ヘーゲルの思想的境位	竹村喜一郎	三〇
.....
カントの自由論とヘーゲルの思惟	笹澤 豊	三三
.....
王弼の道德論	内村 嘉秀	六六
.....
語義域分析と聖書釈義——聖書文献へのコンピューター利用	伊藤 利行	15
.....
Philosophical Theories of Metaphor	Peter LAMARQUE	1
.....

第十一号（昭和六〇年度）

自然から社会へ（ホッブズとスピノザの場合）	工藤 喜作	一
.....
ドイツにおける歴史的理性批判の構想（三）——ガーターマー	水野 建雄	一九
のドイツ批判をめぐって——	竹村喜一郎	三三
ヘーゲル自我論の方位

高度情報ネットワーク社会論の文歴史的意義	上笹 恒	27
.....
バヴィヤ造『中観心論』・『思釈炎』第九章・第十章研究	川崎 信定	1
——一切智思想の展開に関連して——
第十二号（昭和六一年度）

清末における宋儒学風の再興	別府 淳夫	一
.....
ヘーゲル『法哲学』の生成と理念（序）——イルディング・	水野 建雄	一九
テーゼとその批判——	笹澤 豊	四二
.....
ニーチェにおける人間と真理
.....
十九世紀後半におけるJ・R・マイヤーの再評価——	杉山 滋郎	五
T・グロスの場合——
退溪学における敬の哲学の淵源について
——易的論理との関係をめぐって——	佐藤 貢悦	七
The Mīmāṃsā Chapter of havy's Madhyamaka-hrdaya-kārika-
——Sanskrit and Tibetan Texts——(2) Uttara-pakṣa	Shinjo KAWASAKI	1
.....

第十三号（昭和六二年度）

ヘムスターホイスについて（特にスピノザとの関連において）	工藤 喜作	一
.....

ハイデガーにおける技術と近代形而上学

—— 実践の意義をめぐって —— 河上 正秀 三

ニーチェの心理学 笹澤 豊 三五

経験と知識 —— 現代経験論におけるその諸相 —— 竹村喜一郎 五二

W・デイルタイにおける「方法」の問題 序説(一) 森本 司 六九

The Mīmāṃsā Chapter of Bhāvya's Madhyamaka-hṛdaya-kārikā

—— Sanskrit and Tibetan Texts —— (3) Shinjo KAWASAKI 一

第十四号 (昭和六三年度)

解釈学的経験と弁証法

—— ガーダマーのヘーゲル批判をめぐって —— 水野 建雄 一

ラスクにおける認識の理念 竹村喜一郎 一五

仮設と識転変について 竹村 牧男 三五

デカルトと精神分析 —— 出発点の諸問題 —— 谷川多佳子 五九

ニーチェの自由論 笹澤 豊 六九

『易伝』の道德論における占筮の位置 佐藤 貢悦 二七

第十五号 (平成元年度)

柳生新陰流兵法伝書の思想体系 (第一部)

—— 「第一伝書」の解説と心法論 —— 高橋 進 一

デイドロの中国思想解釈について 堀池 信夫 五二

ティンダルの科学活動におけるモデルとアナロジーの意義 杉山 滋郎 六三

デカルトの身体的記憶と想像力 谷川多佳子 二二

T・W・アドルノのキルケゴール論 —— ドイツ今世紀初頭における

キルケゴール思想の影響・受容の局面 (2) —— 河上 正秀 三七

弥勒論書の三性説 —— 識の相分等との関連において —— 竹村 牧男 一五

カント自由論の研究序説 —— 物自体概念をめぐって —— 木村 勝彦 一六

〔特別寄稿〕

「天安門」前後 嶋田 厚 三二

第十六号 (平成二年度)

論理学は超物理学か (三) —— ゲーデルの定理について —— 〃

.....	藤田 晋吾.....	一
T・W・アドルノのキルケゴール論——ドイツ今世紀初頭における キルケゴール思想の影響・受容の局面(3)——	河上 正秀.....	三
.....	竹村喜一郎.....	五
イエナ論理学——形而上学におけるヘーゲルの「関係」概念	田子多津子.....	七
——「魂の降下」の問題をめぐって——	松丸 啓子.....	九
K・ヤスパースの世界史構想の成立	三
Esquisse des fondements de la mentalité japonaise et la question du sujet	Takako TANIGAWA.....	一〇
A Brief Presentation of Modern Greek Philosophy	Andreas G. KATSOURIS.....	三
.....	三
第十七号(平成三年度)		
チョンシー・ライトについて——プラグマティズムとダーウィニ ズム再考——	嶋田 厚.....	一
ディルタイの心的現象論——「プレスラウ草稿」をめぐって——	水野 建雄.....	三
.....	三
デカルトと言語——二元論、普遍言語、ライブニッツ(上)	三

.....	谷川多佳子.....	三
『成唯識論』の伝える安慧の三性説について……竹村 牧男……	七
プロティノスの思想の基本構造——その探究の試み(1)——	田子多津子.....	三
〈 <i>enuphraseu</i> 〉.....	三
啓蒙のパラドックスと道徳——ホルクハイマー／アドルノ『啓蒙の 弁証法』におけるカント批判をめぐって——	木村 勝彦.....	五
Chang Tsai(張載) and the Lankavatara(入楞伽經)	Carl B. BECKER.....	三
.....	三
DIE ONTOLOGISCHE PHASE DER STRUKTURONTOLOGIE		
——Zu Rombachs Auffassung von Zusammenhang der Struktur und Relationalität	Kichiro TAKEMURA.....	五
.....	五
第十八号(平成四年度)		
ハイデガーによるキルケゴール思想の受容——ドイツ今世紀初頭に おけるキルケゴール思想の影響・受容の局面(4)——	河上 正秀.....	一
.....	一
『音楽社会学』ノート——音律理論の形成についての予備的考察——	堀池 信夫.....	九
.....	九
デカルトと言語——二元論、普遍言語、ライブニッツ(下)	谷川多佳子.....	四

キリスト教聖霊運動における理論化の一事例——モートン・

ケルシーの所論をめぐって——池上 良正…… 七

ベルグソンの神秘主義理解について……棚次 正和…… 一七

〈ライト〉の思想と自由の問題……笹澤 豊…… 二二

物理主義と感覚質……信原 幸弘…… 三三

研究ノート——プロティノスにおける「われわれ」(We)の

意味するもの——田子多津子…… 三三

Der Ontologische Gesichtspunkt der Hegelschen Urteilslehre

……Kiichiro TAKEMURA…… 三三

第十九号 (平成五年度)

ハイデガーによるキルケゴール思想の受容——ドイツ今世紀初頭に

におけるキルケゴール思想の影響・受容の局面(6)——

……河上 正秀…… 一

宗教現象学の展開とその学問的な基本性格……棚次 正和…… 一九

戴冠せるアナルシー——ドゥルーズ・ガタリの哲学にかんする

試論……小谷 晴勇…… 二七

シェリングにおける自然と知的直観……高尾 由子…… 三三

〔翻訳〕

アレクサンドリアのフィロン

『世界の創造』——モーセによる「世界創造」について(第五章

三六節——第九章八八節)……野町 啓・田子多津子…… 八五

筑波大学哲学・思想論集第一号～第一八号総目次…… 一〇五